

大和郡山 防災ニュース 30. 8月

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、動きや情報を提供します。

台風が次々と発生、いざという時は早めの避難を！

今年は日本の南の海域の海水温が高いことや気流の関係で、例年になく、多くの台風が発生しています。

奈良への影響があったのは、7月28日に日本の東から西へ横断するという異例のコースを進んだ台風12号。本市では、事前に台風襲来に備え、午後6時30分に自主避難所として、中央公民館、南部公民館、矢田コミュニティー会館、平和地区公民館、昭和地区公民館を開設し、市ホームページ及び登録制の市民安全メールでお知らせしました。午後7時の時点で7世帯9名の自主避難がありました。

さらに災害警戒のため、午後8時50分市内全域に避難準備情報・高齢者避難開始情報をエリアメールで発令し、先の開設避難所に加え、DMGMORIやまと郡山城ホール、市民交流館、筒井小学校、矢田南小学校、治道地区公民館、片桐地区公民館を開設し、最大16世帯25名が避難されました。

台風の襲来が予想される時は、明るいうち、逃げられるうちに避難することが大切です。市では、早い時間に市内各公民館を自主避難所開設します。また日頃から自分の住んでいる場所は水害や土砂崩れの心配がある地域なのか、洪水ハザードマップなどで確認しておきましょう

自主防災組織の結成で地域の防災の輪を！

地震などの大災害における「自助」「共助」「公助」、これら3つの助けはそれぞれどのくらいの割合で人命を救ってくれるのでしょうか？

阪神淡路大震災における調査報告では、「自助」67%「共助」31%「公助」2%という数字が出ています。「共助」＝地域の助け合う力で3割もの人命が救われたことになります。淡路島のある地区では、98%もの、生き埋め者、閉じ込め者が、震災発生後、半日で地域住民の力で救われた事例も報告されています。つまり、地域の防災力によって、助かる命が違ってくるといえることです。

※郡山における自主防災組織の現状は？

地域の防災力の要となるのは、自主防災組織です。8月1日現在市

内318自治会のうち自主防災組織を結成してるのは、227自治会、結成率は、71.4%となっています。ところで、以前、奈良県内各市町村の自主防災組織組織率の調査結果が公表され、郡山の組織率は、57.6%（平成29年4月時点）で大和高田と並んで、県内で最も低い組織率であるという新聞報道がありました。（平成30年8月1日時点では63.2%）組織率とは、自主防災組織を結成している自治会に加入している世帯数を市内全世帯数で割って算出するもので、自治会に加入していない世帯は入れられないため、結成率より低くなっています。

**※「災害時の避難行動マニュアル」（一般住民向け）
「自治会長・自主防災会長のための災害時の行動マニュアル」
「自主防災組織運営の手引」（自治会等役員向け）
を市民安全課窓口にて配布しています。**

昨年私共は、約100件の未結成の自治会の会長宅を訪問し、自主防災組織を立ち上げていただくようお願いに回りましたが、その後の結成数は、20件余りにとどまっています。

地域でも防災に取り組まねばならないのはわかってるんだけど、自主防災組織がどんなことをすれば良いのだろうか？というご質問をよくお受けします。また、7月の豪雨の後、災害の危険が迫った時、自治会でどのような対応をしたら良いかわからないという会長さんのお声がたくさんありました。

このため、市では「自主防災組織運営の手引」「自治会長・自主防災会長のための災害時の行動マニュアル」を市内の全自治会長、自主防災会長に配布しました。これら手引、マニュアルについては、市ホームページでもご覧いただけます。また市民安全課の窓口でも配布しておりますので、自治会の班長さん等においてもご活用ください。

なお、一般の住民向け「災害時の避難行動マニュアル」についても配布しておりますので、災害時の身の守り方の参考にしてください。

大和郡山防災ニュースは、市のHPでもご覧になれます

大和郡山防災ニュース	検索
------------	----

↗

消防団のニュースは、『大和郡山市消防団へようこそ！』をご覧ください！

大和郡山市消防団へようこそ	検索
---------------	----

↗

発行人 市役所市民安全課